

6011-1037  
平成25年4月15日

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成25年度病害虫発生予察注意報第1号について

平成25年度病害虫発生予察注意報第1号を発表したので送付します。

平成25年度病害虫発生予察注意報第1号

平成25年4月15日  
宮 崎 県

病害虫名 炭疽病

作物名 茶

1 発生地域 県下全域

2 発生量 多

3 注意報の根拠

- 1) 平成24年10月中旬の巡回調査の結果、発生面積率94.1%（平年63.0%）、1㎡当り病葉数66.1枚（平年9.3枚）はいずれも平年に比べて多である。平成25年3月中旬の巡回調査でも発生面積率92.3%、1㎡当り病葉数31.6枚と多発状態が続いている。
- 2) 一昨年の夏以降本病の発生が多い傾向にあり、感染源となる発病葉が多く残存している。
- 3) 向こう3か月予報によると、5、6月の気温については、平年より高い確率が40%、5、6月の降水量はそれぞれ平年並、平年より多い確率が40%と予想されており、本病感染の拡大が懸念される。（3か月予報 鹿児島地方気象台3月25日発表）

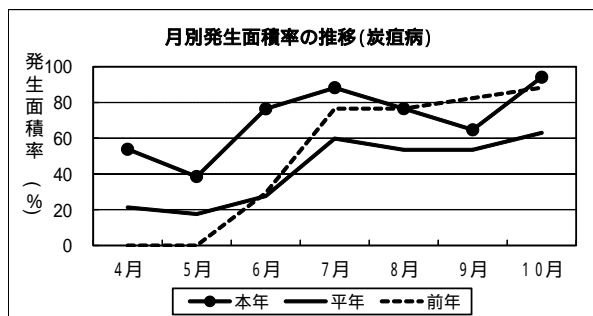


図1 発生面積率の推移（平成24年）

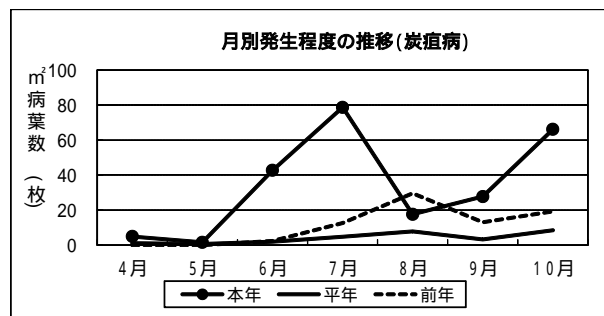


図2 m²当り病葉数の推移（平成24年）

#### 4 防除上の注意

- 1) 本病は前茶期の病葉が伝染源となるため、前茶期に発生が多かった茶園では発生が多くなる傾向がある。病原菌は雨によって飛散するため、特に降雨が多いと発生が多くなる。
- 2) 本病は開葉して間もない柔らかい新葉に感染するので、二番茶の萌芽期～開葉期に重点的に防除する。また、二番茶は、適採までの期間が短いので安全使用期間に十分気をつける。
- 3) 本病は潜伏期間が約20日であるため、発病葉が見つかったからでは防除は困難である。
- 4) 多発状態の続く茶園では整剪枝により伝染源を除去する。
- 5) 品種により、本病への抵抗性に差があるため注意する。
- 6) 薬剤耐性菌の発生を防ぐため、同一薬剤の連用を避ける。

#### 5 その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場茶業支場、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

##### 《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課  
（病害虫防除・肥料検査センター） 若杉  
TEL：0985-73-6670 FAX：0985-73-2127  
E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp